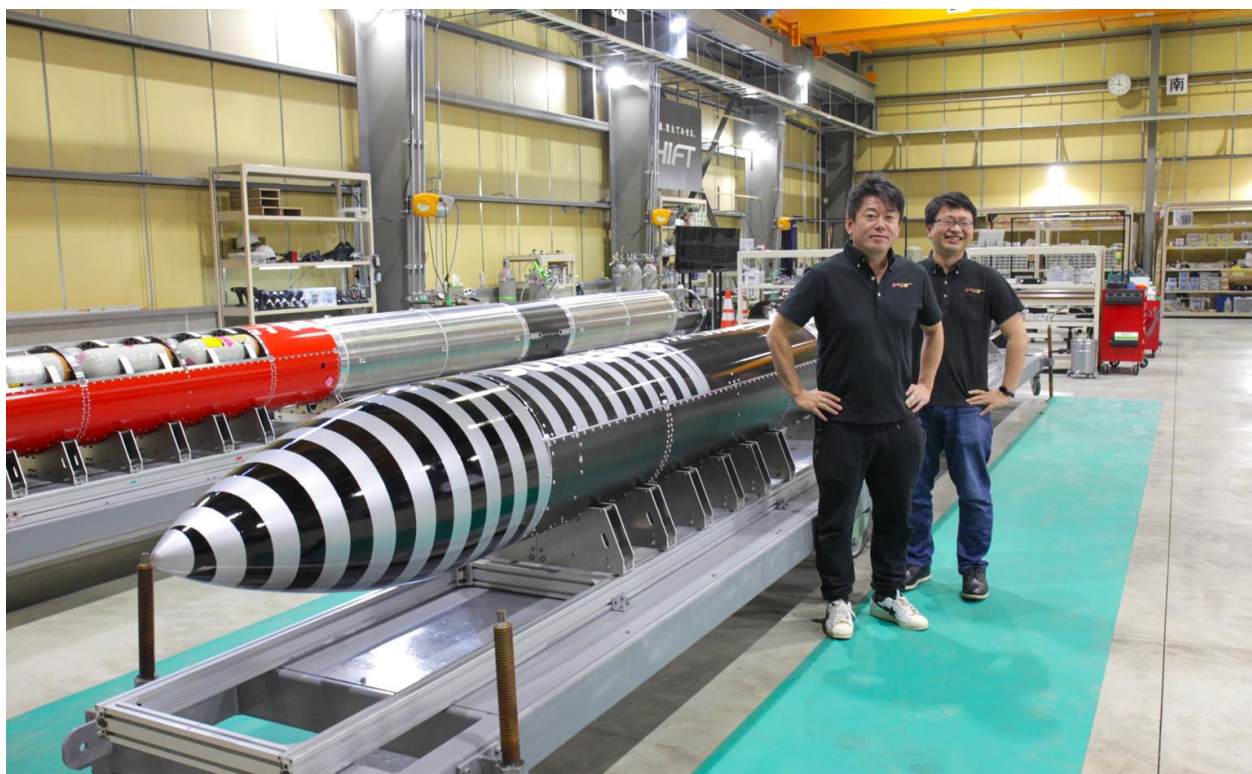


インターステラテクノロジズ「ねじのロケット」 打上げを2021年7月3日（土）に実施 —民間の観測ロケット「MOMO」、二度目の宇宙到達を目指す—



「誰もが宇宙に手が届く未来をつくる」というビジョンを掲げ、観測ロケット「MOMO」と超小型人工衛星打上げロケット「ZERO」を独自開発・製造するインターステラテクノロジズ株式会社（本社：北海道広尾郡大樹町 代表取締役社長 稲川貴大）は、「ねじのロケット（MOMO7号機）」（以下、ねじのロケット）の打上げを下記の通り実施することをお知らせいたします。

ねじのロケットは、2020年7月に打上げを延期し、その後約1年間の全面改良を行いました。MOMOシリーズは、2019年5月に民間が開発・製造したロケットとして国内初の宇宙到達を達成しております。今回は、MOMOとして二度目の宇宙到達を目指します。本日、2021年7月1日（木）に打上げの最終リハーサルを実施し、リハーサルを最後までクリアしたことにより、7月3日（土）の打上げ実施となりました。

インターステラテクノロジズ「ねじのロケット」打上げ概要

- 打上げ予定日時 : 2021年7月3日（土） 11:00
- 打上げ可能時間帯 : 11:00～12:20、16:05～17:50（日本標準時）
※予備日 7月4日（日） ウィンドウ : 4:15～7:50、11:00～12:20、16:05～17:50
- 打上げ場所 : 北海道スペースポートLaunch Complex-0（北海道大樹町）
- 打上げに関する情報 : インターステラテクノロジズ公式SNSにて情報発信致します
Facebook : <https://www.facebook.com/istellartech/>
Twitter : <https://twitter.com/natsuroke>

新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策として、完全無観客打上げ。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、見学場の封鎖、完全無観客、立入り制限区域の拡大などの最大限の対策を実施いたします。

また、具体的な打上げ日時の発表を直前まで控えることとしています（打上げの前々日を予定）。

《ねじのロケット打上げに伴う新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策》

- 打上げ日時の発表を直前まで控える（打上げの前々日を予定）
- 見学場封鎖による完全無観客打上げ
- 見学の方が大樹町に来ないように自粛を呼びかけ
- 立入り制限区域の拡大（打上げを見られる場所を大幅に減らす）
- 制限区域外で人が入れそうな場所へのパトロールと声掛けの準備
- YouTube、ニコニコ動画によるライブ配信の充実（詳細は当社SNSにてご案内します）
- 新聞・チラシ等で立入り制限区域やパトロールエリアを周知



ロケット打上げの様子を、公式YouTubeにてライブ配信。初となる、ロケット機体からのリアルタイム映像をお届け。

ロケット打上げの様子は、インターステラテクノロジズの公式YouTubeでライブ配信を行います（配信の詳細情報は当社公式Facebook、Twitterをご確認ください）。

ライブ配信は打上げ時刻の1時間前スタートを目安として行い、今回は初めての取り組みとして、打上げ中のロケット機体カメラからのリアルタイム映像をお届けします。北海道スペースポートから打上がり、地球を離れ、宇宙に到達する映像を配信予定です。

ぜひ、多くの方にライブ配信にてロケット打上げをお楽しみいただけたらと思います。



リアルタイム映像イメージ
参考）宇宙品質にシフト MOMO3号機のロケット機体カメラからの映像（打上げ後編集動画より）

▼ライブ配信のURL

インターステラテクノロジズ公式YouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCxqoT-HSpNZelZaT5dgHXaQ>

観測ロケット「MOMO」とは

「MOMO（モモ）」は、インターステラテクノロジズが独自に開発・製造する観測ロケットです。高度100kmの宇宙空間に到達した後、地球に戻り海に着水する弾道飛行を行います。飛行の途中に生まれる微小重力空間が様々な科学実験に活用されます。

「MOMO」は、誰もが宇宙に手が届く未来をつくるべく、「世界一低価格で、便利なロケット」を目指して開発されました。高い内製率や設計・製造・試験・打上げ運用までの自社で一気通貫した開発プロセスによって、従来の観測ロケットから約10分の1の価格を実現し、科学実験だけでなく、企業や商品のPR・ブランディングの目的でも活用されています。これまでの7機の機体で34のスポンサーがMOMOを活用しています。

2019年5月に北海道大樹町から打ち上げた「宇宙品質にシフト MOMO3号機」は、民間が単独で開発製造したロケットとして、国内で初めて宇宙空間に到達しました。



ねじのロケット機体イメージ図

MOMO初となる全面改良を実施。MOMO量産化を見据えた信頼性向上へ

■全面改良の概要・コンセプト

MOMOの全面改良の方針は、「低価格で、量産可能」というMOMOのコンセプトは維持しながら、能力増強や、より高い打上げの信頼性を実現しよう、というものです。2020年に打上げを実施した「えんかつ町のプペル MOMO5号機（以下、MOMO5号機）」と「ねじのロケット」でそれぞれ不具合がでていたエンジンを中心として、アビオニクス（電子装置）、機体機装、地上支援設備等全体でのメジャーアップデートを施しました。MOMOの全面改良は今回が初めてです。また、打上げの信頼性を向上させることに加え、MOMOの量産化・高頻度な打上げに向けた改良、また、2023年度に初号機打上げ予定の超小型人工衛星打上げロケットZERO開発のための技術実証も行います。従来のMOMOを「MOMO v0（モモ ブイゼロ）」、新型を「MOMO v1（モモ ブイワン）」と呼びます。MOMO v1の開発により、ロケットの量産化・商業化に向け大きく前進いたしました。

■全面改良の背景

2020年7月に行った「ねじのロケット」の打上げは、エンジンの点火器の不具合によって打上げ直前に安全装置が正常に作動し、打上げシーケンスを自動停止したため打上げ延期となりました。また、2020年6月に打ち上げた「MOMO5号機」は飛行中のエンジンノズルの破損が原因で飛行中の姿勢が乱れ、安全確保のために緊急停止をいたしました。これらを受けて、MOMO全体を改良させることを決め、2020年夏から改良開発に着手し、約1年開発を行いました。

■MOMO全面改良の詳細

・2021/6/1 【プレスリリース】「ねじのロケット」全面改良した機体が完成
<http://www.istellartech.com/archives/3585>

《参考情報》

「ねじのロケット」のスポンサーについて

「ねじのロケット」には企業・大学6社から機体スポンサーのご支援やペイロード等のご依頼を頂き、宇宙にお客様からお預かりしたペイロードをお届けするなどのミッションに挑戦して参ります。

《ネーミングライツ（機体命名権）、ロケット機体広告》

■サンコーインダストリー株式会社：「ねじのロケット」&コーポレートロゴ

創業昭和21年、大阪に本社を置くねじを中心とした120万の締結部品を取扱うサンコーインダストリー株式会社は、「お客様のお役に立ちたい」を企業原点とするねじの総合商社です。MOMOにはこれまでもサンコーインダストリー株式会社のねじが使われており、「MOMO」の1機体で使われている約2500本のねじのうち半分以上がサンコーインダストリー株式会社のねじとなります。この度、サンコーインダストリー株式会社が「MOMO」ネーミングライツを取得し、ロケットは「ねじのロケット」と命名されました。また、ロケットの先端であるフェアリング部分には、ねじのドリル部分をイメージしたデザインが採用され、サンコーインダストリー株式会社の個性を表現しました。



《ロケット機体広告》

■ Theotex Group HD 株式会社：ゲームアプリ「CrossLink」ロゴ

2020年に設立し、ブロックチェーンの技術を用いた様々なサービス開発を行うTheotex Group HD 株式会社が、「えんとつ町のプペル MOMO5号機」に続く、2度目のスポンサーとなりました。TheotexGroupHD株式会社のグループ企業である、株式会社プラチナエッグが開発するスマートフォン向けアプリ“CrossLink”は、「片手間にゲームをプレイしてお小遣いも稼げる」放置型GPS連動ブロックチェーンゲームです。ロケットの機体前面には、“CrossLink”のロゴが掲示されます。



《ペイロード》

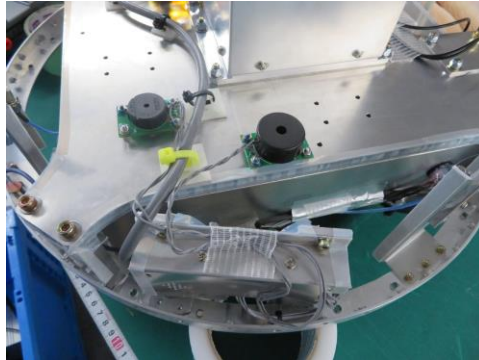
■花キューピット株式会社：大切な人へ贈るバラ

遠くの大切な人へ ～花キューピットは宇宙まで～
花キューピットは、お届け先に近い加盟店が新鮮なお花をお届けする生花通信配達システムです。贈り主様の気持ちをお花に添えて、遠く離れた大切な人へお届けしています。1953年に日本で初めてスタートし現在は全国約4,400店からなる生花店の配達ネットワークです。日本中にまた海外にも届けられる花キューピットが、今回「花キューピットは宇宙まで」プロジェクトとして宇宙へのお届けを通して未来への可能性に挑戦します。



■高知工科大学：インフラサウンドセンサ（超低周波音マイク）

インフラサウンドセンサ（超低周波音）を搭載した実験は、津波・雷・台風・噴火等の災害に繋がる自然現象を遠隔観測する技術の向上を目指したものです。同大学のセンサーは「MOMO2号機」から連続4回搭載し今回が5回目。「宇宙品質にシフト MOMO3号機」をはじめとして、4号機・5号機および地上観測データとの比較により防災等につながる理工学的研究を進めます。



■株式会社サザコーヒー：超高級 パナマ・ゲイシャコーヒー

「世界一高価なコーヒーを、宇宙へ」。超高級「パナマ・ゲイシャコーヒー」を搭載します。前回「えんとつ町のペル MOMO5号機」に続き、3度目のペイロード搭載となります。



■平和酒造株式会社「日本酒“紀土(きつど) 純米大吟醸 宙(そら)へ!!!”

平和酒造株式会社(和歌山県海南市)の「紀土(きつど) 純米大吟醸 宙(そら)へ!!!」を、ロケットの燃料に添加し宇宙を目指します。ロケットの燃料にお酒を添加して打上げを行う世界初の試み。「ねじのロケット」でも、日本酒×日本製のロケットで宇宙に再挑戦します。

「紀土(きつど) 純米大吟醸 宙(そら)へ!!!」は、「MOMO」応援酒として販売され、原材料や人件費等の必要費用を除いた利益のほぼ全てをスポンサー費用として提供いただきます。



インターステラテクノロジズは、「誰もが宇宙に手が届く未来をつくる」をビジョンに掲げ、「世界一低価格で、便利なロケット」を開発・製造する宇宙開発スタートアップ企業。観測ロケット「MOMO」と超小型人工衛星を宇宙空間に運搬する軌道投入ロケット「ZERO」を独自開発。2019年5月4日(土)、北海道大樹町で観測ロケット「宇宙品質にシフト MOMO3号機」を打上げ、民間企業が単独で開発製造したロケットとして国内で初めて宇宙空間に到達しました。

所在地：北海道広尾郡大樹町字芽武149番地7

代表者：代表取締役社長 稲川 貴大

事業内容：ロケットの開発・製造・打上げサービス

URL：<http://www.istellartech.com/>

【本件に関するお問合せ】

インターステラテクノロジズ株式会社 広報 中神(なかがみ)/石原

Mail: press@istellartech.com TEL: 01558-7-7330